

科目名：技術者倫理（選択） 担当教員：鶴田 和寛

バイオリボティクス学科2年次（後期）2単位

◆ 講義概要/Class Outline

これまでの技術者は、企業や組織の一員として限られた範囲で仕事をする事が許されてきた。しかし近年の環境問題や生命科学などの例でも明らかなように、技術者には、一組織の構成員としてではなく、広く社会的スタンスの倫理観が求められている。ここ数年、「技術者倫理」は JABEE に対応して大学の工学教育プログラムにおいて開設される大学が増えている。このことは「技術者倫理」が技術者が習得しておくべき重要な教養科目として認識されているためである。本講義は技術者倫理の入り口として技術者個人の倫理、組織の一員としての倫理、法的責任、説明責任などについて過去の事例をもとに、21世紀の技術者はどのような倫理観を持つべきかを講義する。授業時間：22.5時間

◆ 講義計画(テーマ及び学習内容)

1	技術者倫理の視点	スペースシャトル・チャレンジャー号爆発事故を事例として学習する。
2	技術者と法	JCO 臨界事故&福島第一原発事故を事例として学習する。
3	技術的課題と倫理的課題	福知山線脱線事故を事例として学習する。
4	技術的工件物と倫理的価値観	自動回転ドア事故を事例として学習する。
5	個人と会社の社会的責任	エレベータ事故を事例として学習する。
6	企業倫理（功利主義と費用便益分析）	フォード・ピント号事件を事例として学習する。
7	内部告発	ギルバイン・ゴールドを事例として学習する。
8	エッセイと中間テスト	技術者倫理に関するエッセイと中間テストを実施する。
9	企業コンプライアンス	偽装請負、サービス残業、リコール隠しについて学習する。
10	工程管理	ソフトウェア製造現場での工程管理について学習する。
11	CS改善	企業におけるCS(Customer Satisfaction)改善活動について学習する。
12	個人利益と公共利益	電力設備の建設を事例として学習する。
13	知的所有権	職務発明を事例として知的所有権を学習する。
14	個人責任と企業方針	エネルギー事業を事例として個人責任と企業方針について学習する。
15	21世紀の技術者の倫理観とまとめ	21世紀の技術者の倫理観と講義全体のまとめを実施する。

◆ 到達目標/Class Goal

A. 地球的視点から思考し、社会に対する責任感と倫理観を有する技術者。

(A2) 技術者としての社会に対する責任と倫理観を身につける。

◆ 準備学習の内容(事前・事後学習)

教科書や配布資料、講義ノートなどにより予習・復習して講義に臨むこと。

事前学習：インターネット、図書館等を利用して、学修テーマの情報収集を行うこと。

事後学習：講義で学習した内容を簡単にまとめること。

◆ 評価基準 GradingCriteria

秀 90点から100点」、「優 80点から89点まで」、「良 70点から79点まで」、「可 60点から69点まで」、「不可 59点以下」の基準により評価する。

◆ 評価方法/Grading Method

中間テスト：40点、定期試験：60点とし、合計100点とする。

◆ 受講上の注意/Class Rules

ディスカッションには積極的に参加すること。

◆ 受講制限/Prerequisite

講義の進め方（グループ分け、ディスカッション形式など）の都合で、受講人数を50名（先進工学コースの学生を優先）に制限する。

◆ 関連する科目 RelatedClass

なし

◆ 教科書/Text

著者名 藤本温、川下智幸、下野次男、南部幸久、福田孝之 著書名 第3版 技術者倫理の世界
出版社名 森北出版 ISBNコード 手配情報 教務課に依頼し、学内書店で販売する。

◆ 指定図書/Assigned Books

著者名 なし 著書名 出版社名 ISBNコード

◆ 参考文献/Bibliography

著者名 随時提供する。 著書名 出版社名 ISBNコード